

# 「コロナに負けない」ということ

欠席した時に受けられなかった授業の遅れを、あなたはどのように取り戻していますか。授業は連続していますので、途中が欠けることにより、その後の授業に影響するはずですよ。単元や教材が替わる時ならまだしも、身に付けるべき力は毎日毎日の積み重ねから生まれます。したがって、「たかが一時間、されど一時間」という意識で臨みたいものです。

今朝、生徒たちの登校を見届け、校舎内に戻ってくると、K教諭と二年生の女子生徒一名が、ラーニングコモンズからそれぞれ職員室と教室に向かおうとしていました。生徒の質問に答えていたのかと思ひ、私は近づいてK教諭に尋ねました。

「質問に答えていたの？」

「はい、（その生徒は）昨日欠席だったので。」

「（その生徒は）だれだったの？」

階段を上がり、脚しか見えてない状態だったその生徒が、だれだったか私は尋ねました。

「K・Aさんです。」

「そうかあ。遅れた分を取り戻そうという姿勢がすばらしいね！」

質問にやってくるだけでも尊いことなのに、欠席した分の学びを自分の力で取り戻そうとしているK・Aさんの前向きさ、計画性、実行力に、私は大きな感動を覚えました。一時間一時間の授業だけではなく、授業の流れというものを大切にして臨んでいるからこそ、欠席の翌日にすぐさま行動に移せたのだと思います。

K・Aさんの姿勢や努力を大いに認めたいと思う一方で、「授業を最も大切にしないといけない」と言えない状況があることに、私はすっきりしないものを感じています。

今、最も大切にしなければならぬものは、身体であり、健康であり、そして命です。現在、健康な体、健やかな命が、いつ危うい状況に陥ってもおかしくありません。したがって、「調子が悪かったら欠席してもよい」と言いながら「授業を大切にしないさい」と書いている自分に矛盾を感じています。

私は最近よく思います、「この状況下を生き抜くためには、人間自体が強くないといけない」と。調子が悪いにもかかわらず無理して登校する強さではなく、勇気を出して休んだ分を自分の力で挽回する強さです。それを身に付けることがこれからは必要です。

「コロナのせいで」と声を大にして言いわけするのではなく、「コロナが迫ってきて」と静かに勇気ある行動に移す強さをもちたいものです。私はK・Aさんの姿の中に、それを見つけたいような気がします。「コロナに負けない」ということは、こういうことではないでしょうか。

（五月十八日 記）